

レファレンス事例集

地域編

注：長浜市内の図書館での調査結果をもとに編集しています。「参考資料」として掲載した資料はすべて図書館に所蔵しています。事後調査により加筆修正する可能性があります。ご了承ください。

- Q1 高月町にあったという阿曾津千軒の場所・伝説について
- Q2 太平洋戦争中、湖北地方に空襲があったかについて
- Q3 海北綱親（海北友松）について
- Q4 浅井長政の母について
- Q5 五村別院と教如上人について
- Q6 淵元太郎右衛門について
- Q7 明治期の長浜-関ヶ原間または龍が鼻間の鉄道事情について
- Q8 浅井氏の居城であった小谷城について

登録番号	Q1	調査年月	2011年5月
質問	<p style="text-align: center;">アツシゲン</p> <p>高月町にあったという阿曾津千軒の場所・伝説について</p>		
回答	<p>『滋賀県百科事典』 p.12「あそづばばあ：阿曾津婆」に、「高月町に伝わる伝説で高利貸しの老婆の話。金を借りた人が返せなくなり老婆を簀巻きにして琵琶湖に放り込んだ。...老婆の恨みで千軒あった村が津波で琵琶湖に引きずりこまれ、村人が逃げたところが七野あり七里村というと伝えている」とありますが、場所は特定できません。p.421「水没村伝説」に「琵琶湖周辺の山々では、地震などでもとあった村が水没したという伝説がある。高月町片山の阿曾津千軒にもあり...。」との記述があります。</p> <p>『高月町のむかし話』 p.20に「西野山を越えて、琵琶湖へ出たところに「阿曾津」という所があります...」との記述が、また『奥びわこ物語』 p.34には「阿曾津をとり囲む西野山の木々も...」との記述があります。『高月町史 分冊1』 p.144に地図の掲載があり、高月町西野の北西あたりが阿曾津だとわかります。そのほか『西野水道と農民』 p.11に地図が掲載されており、阿曾津千軒伝説について記載があります。『昔話-研究と資料 41号』 p.70に「滋賀県湖北の千軒伝承 阿曾津婆の伝説を中心として（黄地百合子著）」論文が掲載されています。</p> <p>参考資料：市内図書館で所蔵しています</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 『滋賀県百科事典』 滋賀県百科事典刊行会/編 大和書房 ■ 『高月町のむかし話』 高月町教育委員会/編 ■ 『奥びわこ物語』 三田村正子/作 文芸社 ■ 『高月町史 分冊1 景観・文化財編』 高月町/編 ■ 『西野水道と農民』 成田迪夫/著 サンライズ出版 ■ 『昔話-研究と資料 41号』 日本昔話学会 		

登録番号	Q2	調査年月	2015年4月
質問	太平洋戦争中、湖北地方に空襲はあったのか		
回答	<p>『長浜市史 第4巻』p.258に昭和20年7月28日、長浜に空襲があったという記載があります。『湖国に模擬原爆が落ちた日』によると、滋賀県が発表している県内の空襲は19件。うち湖北地方は上記の1件のみでした。(p.17-22)ただし、被害がなかったものや機銃掃射などは含まれていません。『余呉町誌』には「町内には空襲による被害がなかった」とあります。『米原町史』には機銃掃射の記載があります。『山東町史』には「空襲による被害はなかった」と記載があります。『近江伊香郡誌(下巻)』は昭和28年発行ですが、太平洋戦争の記述はありません。『滋賀県の歴史』p.328に「滋賀県では彦根と大津が空襲を受け大きな被害がでている」旨の記載があります。年表p.327に「長浜市の鐘紡長浜工場に小型爆弾が数個投下され、死者一人を出す」と記載されています。『点字で読む滋賀で学ぶ戦争の記録(もっと知りたい滋賀で学ぶ戦争の記録)』には「軍事施設が狙われたこと」の記載があります。</p>		
	参考資料：市内図書館で所蔵しています		
	『長浜市史 第4巻』長浜市史編さん委員会／編		
	『湖国に模擬原爆が落ちた日』水谷孝信／著 サンライズ出版		
	『余呉町誌』余呉町誌編さん委員会／編		
	『米原町史』米原町史編さん委員会／編		
	『滋賀県の歴史』山川出版社／編		
	『点字で読む滋賀で学ぶ戦争の記録(もっと知りたい滋賀で学ぶ戦争の記録)』滋賀県平和記念館学習用小冊子編集委員会／編 滋賀県平和祈念館(注：墨字版・点字版のセット)		

登録番号	Q3	調査年月	2018年11月
質問	加保 ツカカ 加保 コツヨ 海北 綱親 … 海北友松の父…について		
回答	<p>『戦国大名家臣辞典西国編』p.86に「善右衛門と称す。赤尾・雨森とこの海北を合わせ、浅井氏の海赤雨三将(加保ツカカ)とよんでいる。特に海北綱親は浅井氏の武者奉行を務めたとい所伝もあり…秀吉が綱親と直接戦ったことがあり、「海北綱親はわが軍法の師」といった話は有名」との記載があります。</p> <p>『郷土の先哲』p.70～84では、子どもにもわかるように簡単に海北家の起こりから没役まで説明しています。</p> <p>その他…『海北友松とその族』には「三・海北善右衛門」の項のほか「海北家由来諸記」の記載があります。『近江東浅井郡の昔話』の「海北友松」p.14ではごく簡単ですが綱親の人物像の記載があります。</p>		
	参考資料：市内図書館で所蔵しています		
	■ 『戦国大名家臣辞典西国編』 山本大/編 新人物往来社		
	■ 『郷土の先哲』 浅井町教育委員会/編		
	■ 『海北友松とその族；海北顕英遺稿集』 石田肇/編		
	■ 『近江東浅井郡の昔話；東浅井郡の昔話』 馬場秋星/著 イメーディアシバタ		

登録番号	Q4	調査年月	2010年4月
質問	浅井長政の母について（特に浅井家の家系図、婚姻事情について）		
回答	<p>『みーな びわ湖から vol.97』の特集「浅井家をめぐる女性たち」に詳しく記載があります。高時川の左岸を管理する湖北町丁野の浅井家と右岸を管理する井口家の緊張関係を緩和する意図があったことなどが記されています。</p> <p>『浅井長政と姉川合戦』p.40-41に系図があります。また同p.46-47に、「高時川右岸を灌漑する伊香郡用水を統括していた【井預かり】である井口氏と、高時川左岸を灌漑する浅井郡用水の代表者である浅井氏は、絶えず緊張関係にあった」、「両家の婚姻は、浅井氏の最大の経済基盤であった小谷城下の生産を安定させる目的があった」とあります。</p> <p>『みーな びわ湖から vol.126』p.15に「高時川右岸を灌漑する堰を所有していたのは、伊香郡の実力者である井口弾正であった」、「浅井郡を地盤とする浅井氏は、井口弾正の娘[井口阿古（イカア）]を長政の父である久政の正室として娶ることによって井口家を重用する代わりに、上流に用水を引かせるという取引をおこなったと思われる」との記載があります。</p>		
	参考資料：市内図書館で所蔵しています		
	<p>■ 『みーな びわ湖からvol.97』 長浜みーな協会</p> <p>参考文献として『近江伊香郡志』、『近江源氏』田中政三著、『ふるさと井口の歴史探訪』高橋正泉著、『高月町の昔話』高月町教育委員会があげられています。</p>		
	■ 『みーな びわ湖からvol.126』 長浜みーな協会		
	■ 『浅井長政と姉川合戦』 太田浩司/著 サンライズ出版		

登録番号	Q5	調査年月	2013年1月
質問	五村別院と教如上人について		
回答	『長浜御坊三百年誌 付 五村御坊』p.22「五村懸所」に教如上人と五村の関係について記載があります。その他下記資料を参考にしました。		
	参考資料：市内図書館で所蔵しています		
	■『長浜御坊三百年誌』中沢南水/著 永田文昌堂		
	■『教如上人』上場顕雄/著 真宗大谷派宗務所出版部		
	■『とらひめのれきし』虎姫町立図書館サービス充実支援事業実行委員会/編		
■『五村御坊由緒記』			

登録番号	Q6	調査年月	2011年12月
質問	7并ト 如カIEフ 湊元太郎右衛門について		
回答	『長浜市史 第3巻』 p.352に「表43：大通寺に関する大工など一覧」として 大通寺建造に関わった屋根屋として名前のみ記載があります。		
	参考資料：市内図書館で所蔵しています		
	■『長浜市史 第3巻』長浜市史編さん委員会/編		

登録番号	Q7	調査年月	2021年2月
質問	明治期の長浜－関ヶ原間または龍が鼻間（明治16年開通）の鉄道事情について		
回答	『長浜市史 第4巻』 p.91、p.103には「旧長浜駅から関ヶ原間（明治16年～明治32）」の記載があります。『蒸気機関車200年史』 p.216～には図の掲載があります。『日本の鉄道車輛史』 p.31には「国産のSLは860形式で1893（明26）」とあり、明治16年に開通していたなら国産の車輛ではなかったことがわかります。		
	参考資料：市内図書館で所蔵しています		
	■ 『長浜市史 第4巻』 長浜市史編さん委員会/編		
	■ 『蒸気機関車200年史』 斎藤晃/著 NTT出版		
	■ 『日本の鉄道車輛史』 久保田博/著 グランプリ出版		
■ 『写真集・長浜百年』 長浜市総務部企画課/編			

登録番号	Q8	調査年月	2012年2月
質問	小谷城の築城について		
回答	<p>小谷城は長浜市湖北町伊部の小谷山にありました。小谷城の築城は不詳な部分もありますが、1525年（大永5年）、六角定頼（トウカサダヨリ）が湖北に侵攻した際に、小谷城の大嶽を攻めたことが『長亨年後畿内兵乱記』に記載されています。『ふるさと読本 浅井氏三代と小谷城』、『小谷城絵図の基礎的考察-小谷城下の復元的研究2-』には「1524年（大永4年）頃、浅井亮政が小谷山の最頂部に大嶽を築城した」との記述があります。そのほか多数出版されていますが、築城に関する資料を集めました。</p>		
	参考資料：市内図書館で所蔵しています		
	■滋賀県百科事典 滋賀県百科事典刊行会/編 大和書房		
	■史跡小谷城跡 浅井氏三代の城郭と城下町 湖北町教育委員会/編集 湖北町教育委員会		
	■浅井三代小谷城物語 馬場秋星/著 木精舎		
	■湖北残照 歴史篇 戦国武将と浅井三姉妹 豊島昭彦/著 サンライズ出版		
	■戦国大名浅井氏と北近江 浅井三代から三姉妹へ 長浜市長浜城歴史博物館/編		
	■ふるさと読本 浅井氏三代と小谷城 湖北町立小谷小学校/制作 歴史・文化ボランティア（亀花クラブ）/編		
	■戦国大名浅井氏と小谷城 小和田哲男/編著 湖北町教育委員会		
	■戦国大名浅井氏と小谷城 中村一郎/著 小谷城址保勝会/編		
	■近江の山城ベスト50を歩く 中井均/編 サンライズ出版		
	■図解近畿の城郭 II・IV 中井均/監修 城郭談話会/編 戎光祥出版		
	■小谷城絵図の基礎的考察-小谷城下の復元的研究2- 北村圭弘 『滋賀県立安土城考古博物館紀要 第9号』 抜刷		
	■滋賀県中世城郭分布調査 7 伊香郡・東浅井郡の城 滋賀県教育委員会/編 滋賀県教育委員会		
	■史跡小谷城跡清水谷地区試掘調査報告書 湖北町教育委員会・滋賀県文化財保護協会/編集 湖北町教育委員会		
■史跡小谷城跡環境整備事業報告書 湖北町教育委員会/編 滋賀県文化財保護協会			